

『連塾 方法日本I』

神仏たちの秘密 — 日本の面影の源流を解く —

松岡正剛（セイゴオ）氏が「連塾」と題して2007年に行った8回の講演録の前半3講が本書『連塾 方法日本I 神仏たちの秘密—日本の面影の源流を解く—』に収録されています。既刊の『日本という方法』や『17歳のための世界と日本の見方』のような一般向けの日本論をはじめとして、われらが「知の巨人」セイゴオさんの日本についての想いは深くて広いのはご存じの通り。今年1月にも『日本力』という新刊が出ましたし、丸善丸の内本店内部「松丸本舗」（昨年10月オープン時）の開店記念特別企画も「日本が変わる」でした。

多中心で両存並列の国、日本。「てりむくり」という和漢折衷の建築様式を例にして語られはじめたのは、異なる二つの要素を消化し、混在させていく技に象徴されるさまざまな「今」の事象、そしてそれらをつなぐセイゴオさん流の思索の糸口でした。

日本の社会や文化の奥にひそんでいるのはまさにこのような
「矛盾と統合」なんです。「葛藤の出会い」なんです。和と荒、
正と負、凹と凸、表と裏、「みやび」と「ひなび」の同居です……。
このような矛盾しているものが合わさっていく、アワセになって
いく。そうやって自己同一をゆさぶっていくのが日本流なんです。

(p21)

これらが今、語られなければならない理由も冒頭に語られています。21世紀に生きる私たちは他の国、他の作法や常識を含めた情報が溢れかえっているなかで生きています。それなのになぜか大人であっても「日本の私」について語ることはやさしくないのですね。

こういうときには、かつての日本人が、いったいどうやって和漢や和洋をアワせてきたのかということを考えなおす必要がある。(p32)

「他」と比較して「自」の立ち位置を知る、そのルーツを知るということは「他」と対峙して初めて、とても重要になってきます。それが自明の内部にいるときにはさほど問題にならなかったに過ぎないのです。それでも幾度となく類書に日本論が書かれ、また「日本」について論じられるなかにあつて、それらを読み理解することには一抹の躊躇がありました。それがなぜかは本書を読むうちに、その理由が分かってきました。

後半には記記神話に端を発する日本の神仏についての語りが続いていきます。(本書のテーマがそこにあります。)が、戦時あたりそれらが一種神格化されたかたちによって伝えられ、日本の「負」の面を形づくってきたことも扱われています。国粹的として、あるいは自虐的としてきちんと過去を識らず大きくなってしまった私たち。セイゴオさんの思考と知識の糸口をお借りして、とぎれとぎれの知識と関連が繋ぎあわすための場が、まさに本書には展開されていました。

最後に、タイトルの「方法日本」という言葉について、ふと耳馴れずにとまどってしまったのですが、それは「日本を識る方法」という意味ではなく、次のような意味でした。

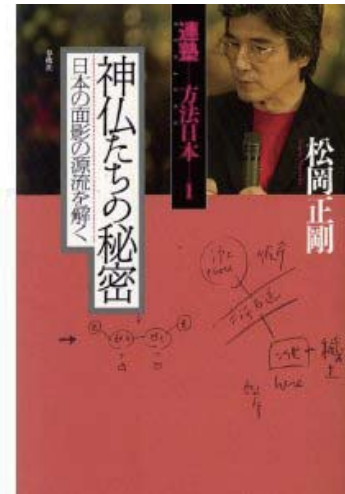
日本はもともと「知の構造」には関心がなく、方法(強調点)によつて知を凌駕してきたともいべきなのです。日本は方法が知なんです。「知の構造」ではなくて「方法の知」なんです。

(p101)

独自の概念かもしれませんが、同じ言葉なのに主客が入れ替わったりその「あいだ」を行き来する方法——それが本書の「方法日本」です。

桑田佳佑、椎名林檎の歌詞から日本古来の神仏、建築様式の「てりむくり」から古今東西の数多の歴史・文化についての縦横無尽な対話。本書はとりわけ「連士連衆會」というファンクラブの前での講演ということもあつてか、のびやかに楽しげに語られている印象が強いです。

そして深淵な内容を扱っているのに、なぜか面白く読むことができます。知識教養の深い方ならばそれ相応の深みと味わいが、知識教養の浅い方(評者はこちら)にもそれなりの愉しみが味わえるところが、希有なる1冊と言えるでしょう。



連塾 方法日本 I
神仏たちの秘密
— 日本の面影の源流を解く
著：松岡正剛
刊：春秋社 2008年12月
1,890円(税込)

本を読むだけでなく、
読んであげるだけでもなく
何か、もっと先へ。
そう思って始めました。
食事と同じく、
読書は私たちの栄養に
なってゆくもの。
私の評は、その美味しさの
一滴をお伝えするために
在ります

波那 (はな)

静岡県在住。夫十子ども2人の4人暮らし。

ネット書評家・五行歌人

2008年オンライン書店ビーケーワンに
wildflower名義で書評を書き始める。

2009年5月9日「書評の鉄人」

2009年10月16日「書評の鉄人列伝195回」

<http://www.bk1.jp/contents/shohyou/retuden195>

2010年3月9日 通算書評数200本達成。

隔月刊誌『グランパピエ』に書評の連載中